

秋田県

公文書館だより

第53号

令和8年10月1日



令和8年の干支は、「午」ですが、当館の所蔵資料の中には、馬が描かれているものがあります。上の絵は、伊藤家文書「(乗馬指南書)」(伊藤52)に描かれている7つの馬の絵のうちの一つです。

武士を乗せて走る馬の様子が、馬体の模様をはじめ、表情や足の運び、尻尾の動きに至るまで捉えられており、加えて、手綱を引く武士の様子、鞍や鎧、馬銜といった馬具についてもしっかりと描かれています。視覚的な情報を見る者に的確に伝えると同時に躍動感を感じさせるものとなっています。

資料の内容については、3頁の資料紹介で取り上げておりますので、御一読ください。

今後の行事予定

◆企画展

●地域連携展

昭和100年記念展
「記録資料でたどる秋田の1世紀」

(大潟村千拓博物館)
8月1日(土)~12月27日(日)

●本館展示

昭和100年記念展
「記録資料でたどる秋田の1世紀」(後期)

(特別展示室)
9月26日(土)~10月29日(木)

「大坂冬の陣と秋田藩」
(特別展示室)
11月5日(木)~12月1日(火)

◆公文書館講座

●古文書解説講座

(応用編)

10月16日(金)・11月20日(金)・
12月18日(金)

●記憶の護り人養成教室

10月8日(木)・12月10日(木)

今後の情勢によっては変更の可能性があります。御了承ください。

企画展「大坂冬の陣と秋田藩」開催

秋田県公文書館では、大坂冬の陣（慶長19年（1614））に関する資料を多く収蔵しています。

その中には、「梅津政景日記」「国典類抄」「秋田藩家蔵文書」や関連する絵図資料、軸装された肖像画などがあります。

また、2年前に寄贈された「三浦畑四郎収集資料」の中に、秋田藩初

「摂州大坂冬夏御陣図」（A21203）



代藩主佐竹義宣の側近梅津憲忠が、大坂冬の陣今福の戦場から弟の梅津政景に宛てた書状3通があり、そこからは、生々しい合戦の様子をうかがうことができます。

今回はこれら貴重な資料を通して、大坂冬の陣と秋田藩佐竹氏の奮闘ぶりを示す展示を行います。

どうかご来館いただき、お楽しみください。

場所 2階 特別展示室
日程 11月5日木～12月1日火
時間 10時～17時
※ただし、11月11日（水）、18日（水）、25日（水）は休館日

【伊藤 成孝】

「梅津憲忠肖像」（吉田77）



夏の閲覧室ミニ展示、「プレゼント」が大好評

今夏の閲覧室ミニ展示では、ご覧いただいたお客様にささやかなプレゼントを用意しました。「救荒食物図解」の展示では、写真①の野草解説書、「久保田城下百物語」では写真②のオリジナル妖怪しおりでした。

「救荒食物図解」は明治の聖農・石川理紀之助が飢饉の際に食用になる野草とその調理法を解説したものです。野草解説書では、小豆菜やタネポポなど8種の野草をピックアップして、くずし字の解説も載せました。ポケットサイズで持ち運びでき



写真① 飢饉時に食べていた野草を図解！

ます。



写真② 恐怖(?)のオリジナル妖怪しおり

「久保田城下百物語」は、藩士たちが百物語を開いた夜、城下の各場所から妖怪どもが集まり、最後のろうそくが消えた後に脅かそうとした様子を描いたものです。くずし字を読み解きながら妖怪の名前を調べたり、城下絵図を使って妖怪の出現場所を探ったりできる体験型展示となりました。

どちらの展示企画も小さいお子様から大人の方まで喜ばれ、公文書館の所蔵資料を身近な存在に感じてもらうことができました。

【柴田 知彰】

新収蔵資料の紹介 「河合清収集資料」と「伊藤家文書」

資料群

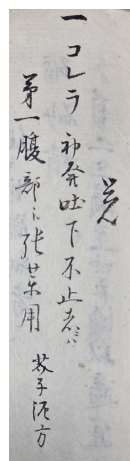
当館が近年新たに寄贈を受け、整理を完了した資料群のうち、「河合清収集資料」および「伊藤家文書」の概要を紹介します。

「河合清収集資料」には、大小姓を務める秋田藩士宇佐美久太夫〔慶応元年（1865）では二〇三石〕が江戸藩邸詰を命じられた際の日記1点が収められています。

一方、「伊藤家文書」は、公開点数59点の資料群です。本資料群は延宝8年（1680）から明治34年（1901）までのものが含まれています。伊藤家は江戸時代に秋田藩の「馬医」を務めた家柄であり、その伝来資料には近世の馬医関係資料などの専門技術の記録から、近代に移行する時期の土地売買や年貢関係の村政資料、さらには家計・慶弔などの家政記録まで、地域社会と家政の営みを示す資料が含まれています。

これらの資料群には、当時の藩士の足跡や社会の変遷を知るうえでの基本資料が含まれており、このうち特徴的な3つの資料について以下に紹介します。

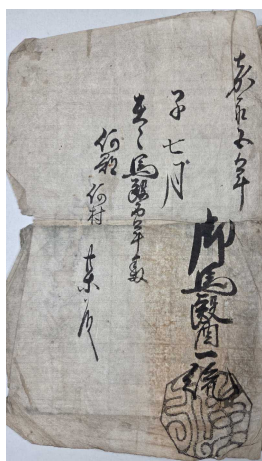
（1）「記録 公私混雑全一 安政五年六月ヨリ」（資料番号…河合1）



安政5年（1858）6月から翌年にかけて、宇佐美久太夫が記した日記です。

江戸藩邸への1年間の赴任を命じられた宇佐美が、久保田からの往復の旅路や、現地での任務を克明に記録しています。さらに日記内には、当時流行したコレラの対処法として薬方を記した「覚」や、異国軍艦の品川沖来航を伝える「御長屋触」なども書き留められています。

（2）「覚（馬医の医療についての意見）」（資料番号…伊藤41）



嘉永5年（1852）7月に、藩の馬医から地域の馬医たちへ宛てて出された「覚」です。

当時は、自己流の治療によって馬を死なせてしまう事例が相次いでおり、これに対して藩主の命により取締りが強化された背景が記されています。無資格での治療行為を禁止し、正規の指導者へ弟子入りして認定を受けることを義務付けたほか、申請時の村役人による連名願書の提出など、藩にとって重要な産業基盤であった馬の医療技術を、厳格に管理しようとした様子がうかがえます。

（3）「（乗馬指南書）」（資料番号…伊藤52）

延宝8年（1680）8月に記された、長さ4.5メートルに及ぶ図絵を含む長文の資料です。

資料には「乗馬の案内」として、乗馬や馬術に関する具体的な心得が7項目にわたり説かれています。例えば「一番」の項目では、馬を調教する初期の7日間は馬具（鞍・轡・鐙）を変えてはならず、乗る人を途中で変えることも馬の反応が乱れて良くないと戒めています。藩の馬医を代々務めた伊藤家における、初



期の専門技術の伝承や教育のあり方を示す資料です。

今回紹介した資料は、いずれも当館への閲覧申請手続きを経て、実際に手に取ってご覧いただくことができます。先人たちが残した生きた歴史の証に触れ、新たな秋田の魅力を発見する一助として、ぜひお気軽に御利用ください。

【渡部 拓】

柳田国男の書簡「真澄遊覧記」をたずねて

ききおひつ

東山文庫から、民俗学の創始者といふべき柳田国男の書簡を紹介します（AH289）。

同文庫は、秋田の郷土史研究に大きな功績を残した東山太三郎氏の著作やノート、またその収集資料からなる資料群ですが、この書簡は、柳田が東山自身に宛てて書いた手紙です。

書簡には、「六月十五日」とだけあつて年がわかりません。封筒にある郵便局の印は、左側がややかすれていて読み取りにくいのですが、「2.6.15」とみえ、おそらく昭和2年のものと思われるかもしれません。

内容は、菅江真澄の著作に関することです。この年の5月10日から、柳田は、男鹿半島に二泊し、奈良環^{たま}之助の案内により徒歩で半島を一周しています。

また、5月14日には、大曲農業学校で「東北と学問」と題して講演し、翌15日には、秋田図書館で行われていた秋田考古会春季総会で、飛び込みのようなかたちで「菅江真澄百年祭を前にして」と題して講演をしています

（以上、柳田国男全集・別巻1、筑摩書房）。

さて書簡は、冒頭の挨拶もそこそこ、次のように述べています（写真掲載部分）。

さて真澄翁遊覧記のこと、
帰京致、内閣本の目録と比べ候も此方に欠け秋田二存するものハ、「ハシワの若葉」



等十二三種も有之候て、此方にのみ存するものハ一つも無之、結局全集編纂の場合、秋田図書館を中心とするの他なきを知り申候

ここで柳田が言っているのは、真澄の原本ではなく、精巧に模写された複製本のことを言っていると思われる。全集の編纂には、秋田図書館本を中心として考えなければならないと言っています。

さて、掲載部分の末尾には「雄鹿の寒風^{さむかぜ}」のことが出てきますが、続きの文とともに紹介しておきましょう。

雄鹿の寒風と題する一篇、御示しの表中に見えずして内閣にのみ有之候か、是ハ或は秋田現在の「小鹿能鈴風」と一つにや、御序に御一檢為ハリ度、此方の寒風ハ文化七年十月の遊記に有之候

ここにみえる「寒風」「鈴風^{すずかぜ}」は、「秋風^{あきかぜ}」「春風^{はるかぜ}」「島風^{しまかぜ}」とならんで、「男鹿五風^{おどろごふう}」と総称される紀行文の一篇です。

柳田は、ここで、内閣本の「寒風」

は、秋田にある「鈴風」と同じものだろうか、機会をみて確認してほしいと、東山に頼んでいます。まだ「男鹿五風」すべての発見にいたっていない段階のものでしょう。

このほか書簡には、柳田の知人が、弘前方面で、「津軽の奥」と「外浜奇勝^{しやう}」という二編を確認したと伝え、

何れも別書にて、秋田二庫の未だ伝へざる所のやうなから、今一応比較せざれば断言し不得候、幸ひにして此が新しきものなるとわかり候ハ、内閣ハ兎に角、秋田の方の御蒐集集としてハ補充し度ものと存候、写字料は小生寄附致候てもよろしく候

と述べています。

以上のことは、真澄研究者のあいだではすでに知られていることなのかもしれせん。ですが、どうでしょう。行間から、研究者柳田の、調査研究への熱意と昂揚感が伝わってこないでしうか？これこそが、この書簡の魅力だと私は思います。

【金森 正也】

令和8年度

古文書解読講座（入門編）の開催報告

当館は、古文書を利用する際に必要なくずし字解読の基礎を学ぶ機会を提供するため、古文書解読講座（入門編）を6月から9月まで月1回のペースで、全4回開催しました。

第1回と第2回では、まず楽しんで学習に入ってもらうため、大河ドラマ「豊臣兄弟！」に関連させて、「高橋彦右衛門大坂合戦覚書」（A280-69-41-6）をテキストにしました。大坂冬の陣に関する文書であり、最大の激戦地となった今福での佐竹勢の奮戦を記したもので

す。難しいくずし字を古文書解読の字典を使って、講師とともに読み解きました。

続く第3回では、現在当館で翻刻本を刊行中の『野上陳令日記』第3巻所収の「御学館文学日記5」（混架025-029-5）を読み解きました。陳令が藩校明德館に在職していた天保4年（1833）に起きた飢饉に関して、8月18日の記事をテキストに使用しました。

最終の第4回では、令和3年度に全8巻の翻刻刊行を終えた『岡本元朝日記』より、江戸の秋田藩邸で家老が体験した宝永4年（1707）11月の富士山噴火に伴う地震と降灰の記録をテキストに使用しました。岡本元朝の文字は比較的読みやすいくずし字なので、少し長めのものを講師とともに読み解きました。

受講者からは、ゆっくり丁寧な進め方を喜ばれる声が多く、来年度以降の参考にしたいと思います。

入門編に続く応用編は、10月から12月まで、毎月1回の開催です。

【柴田 知彰】



県政映画上映会報告

秋田県では、昭和30～50年代の県の事業紹介、県内各地域の生活や文化、産業、災害など様々な話題を「県政だより」や「県政ニュース」として製作し、映画館等で上映しておりました。現在、当館ではそれら映像、約300本を管理保管しており、その一部を大きなスクリーンで鑑賞していただくため、毎年、2日間にわたり、「県政映画上映会」を実施しています。

今年度は、8月27日と28日の2日間、午前・午後の各1回、計4回、当館3階の多目的ホールにて開催しました。



「昭和中期を振り返る」
「伸びゆく秋田」



上映会風景

午前の部は昭和30～40年代の記録の中から、いくつかのトピックを抜き出し編集した「昭和中期を振り返る」を上映。午後の部は地方自治30周年を記念して製作された「伸びゆく秋田」を上映しました。アンケートでは、概ね良い評価をいただきました。次回はもっと多くの人に見てもらいたいです。

これらの県政映画（1本あたり約10分）については、普段でも閲覧可能ですので、興味のある方は公文書館カウンターにお声がけください。

【中田 暁】

「秋田博」の映像資料について

当館では今年度、昭和100年記念展「記録資料でたどる秋田の1世紀」を行っています。この中で、「秋田博」のポスターを展示しています。「秋田博」は、明治100年と八郎潟干拓事業の完工を記念し、大阪万博の前年、昭和44年8月2日から9月25日まで開催されたもので、テーマである「農業」にとどまらず、鉱工業、生活、科学など過去から現在、そして未来までを提示したものでした。展示内容や、開催の状況が、どのようなものだったのか、記録された映像資料があります。

「県政ニュースNo107」(DVD000110)では、「秋田博めざして」として、起工式や、「来年の夏は秋田博へ」と他県に出発したキャラバン宣伝隊の模様などが、他のニュースと共に納められています。

「県政ニュースNo11」(DVD000116)では「準備進む秋田博」として、重機が縦横に動く用地整備や、かまぐらの形をしたパビリオンの鉄骨工事が進む様子、4月に開催された「秋田博春祭り」のミス秋田博コンテスト、秋田博音頭が紹介される

模様が、他の話題と共に納められ、開幕に向けて、県内における気運の醸成を図ったものとなっています。

「ビジョンへの誘い」秋田博は招く」(DVD000281)は、県外での誘客宣伝のため、制作されたものと思われ、完成予想図で展示内容を紹介しているほか、秋田までの所要時間の案内などがされています。

「県政ニュースNo116」(DVD000119)は、「秋田博開く」と題した特集となっており、開会前日の誘客キャラバン隊ゴールのパレードに始まり、パビリオンの建設工事から、他県での誘客プロモーションや前夜祭、開会式までの模様、そして、各パビリオンでの展示内容、自動車ショーやステージショーなどのイベント、「こどもの国」でジェットコースターを楽しむ子供たちなど、博覧会の様子を詳しく伝え、開催期間中の誘客を意図したものでした。

「県政ニュースNo118」(DVD000121)では、入場者数102万人と盛況裏に終了した「秋田博」を振り返り、天皇皇后両陛下御来場の御様子、閉会式の模様などを伝えています。

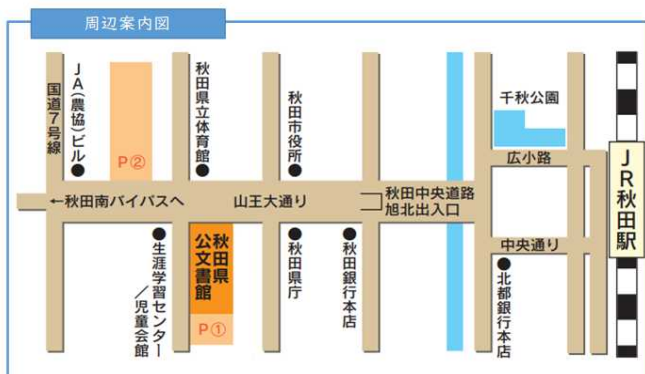
これらの映像には、本来の内容もさることながら、高度成長期のただ中にあつた世相が、動画で記録され今に伝えられています。行き交う人々の姿や車両の様子、背景に映る街並など、現在で、変わってしまったものも多く、当時を過ごした方々には、郷愁を感じさせるものです。

映像資料は、当館でご覧いただくことが出来ます。また、映像資料の一覧は、秋田県公式ウェブサイトの当館関連ページをご参照ください。
(<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/5218>)

【進藤 隆男】



県政ニュースNo116から



編集発行：秋田県公文書館（秋田市山王新町14-31 県立図書館と併設）
電話 018(866)8301 FAX 018(866)8303 最寄りバス停：県立体育館前
URL <https://www.pref.akita.lg.jp/kobunsyo/>

編集後記

4月から「公文書館だより」の編集に携わることになりました。よろしく願います。さて「秋田博」といえば、当時、小学3年生の私は、父に連れられて行った記憶はあるものの、初体験のジェットコースターの印象があまりにも強く、正直、他のことは覚えていませんでした。57年後に、改めて映像を見ると、米俵のアーチや、酒を飲む八岐大蛇などの展示を見た記憶が頭の奥底から蘇り、我ながら驚きました。

【進藤 隆男】